

報道関係者各位

2018年11月27日

公益財団法人MSD生命科学財団

## **研究助成 2018-がん領域-** **交付者決定**

公益財団法人MSD生命科学財団(東京都千代田区 代表理事: 諸岡健雄、以下MSD生命科学財団)は、「研究助成-がん領域-」プログラムの交付者が決定したことを発表しました。

本研究助成には、次の2つのプログラムがあります。

- ・がん研究に一定の成果・実績を有し、日本国内で組織的な研究体制をスタートする満45歳以下(M.D.は満47歳以下)の研究者を支援する【スタートアップ】プログラム
- ・がんに関する独創的な基礎研究または臨床研究を行っている満40歳以下(M.D.は満42歳以下)の研究者を対象とした【若手研究者】プログラム

一次選考(書類審査)、二次選考(プレゼンテーション審査)の結果、以下がそれぞれ採択されました。

【スタートアップ】プログラム交付者1名、助成金額は1,000万円(500万円×2年間)

【若手研究者】プログラム交付者10名、助成金額は300万円(150万円×2年間)／1名

MSD生命科学財団は、生命科学研究の向上と次世代の人材育成のため、社会と研究者のニーズにあわせてその支援をさらに充実させ、人類の健康増進に向けて、より一層貢献したいと考えています。

### **公益財団法人MSD生命科学財団について**

MSD生命科学財団の活動の歴史は、旧万有製薬株式会社(現MSD株式会社)が1989年から社会貢献活動の一環として、有機合成化学分野を支援していた『万有シンポジウム』の開催に端を発しています。その後、社会の要請に応える形で、循環器領域における海外留学助成の活動が開始され、人類の疾病予防と治療に関する生命科学の研究の奨励と科学者や研究者の育成を目的に、さらに活動を継続的に発展させるため、2002年に万有生命科学振興国際交流財団が設立されました(2011年に公益財団法人に移行)。

2010年に出捐会社であった万有製薬株式会社がシェリング・プラウ株式会社と統合し、MSD株式会社となりました。2016年に出捐会社であるMSD株式会社とその親会社から名称等使用に関する許諾を得て、財団名称を「公益財団法人MSD生命科学財団」と変更いたしました。

当財団は、設立以来、新たな研究領域への支援や留学助成の領域拡大など、事業内容のより一層の充実に取り組んでおります。活動の実施にあたり、各分野の第一人者の先生方をはじめ様々な関係者の皆様から、次世代の研究者育成および学術振興の観点から継続的かつ多大なご支援をいただいております。

公益財団法人MSD生命科学財団

担当: 界外(携帯: 080-3599-8467)

TEL: 03-6272-1098 FAX: 03-6238-9128

URL: <https://www.msd-life-science-foundation.or.jp/>

**研究助成 2018-がん領域-交付者**

(50 音順・敬称略)

**【スタートアップ】プログラム**

氏名	所属	研究テーマ
高橋 秀尚	横浜市立大学 大学院医学研究科 分子細胞生物学教室	新規の転写伸長制御因子 Med26 による腫瘍 発症機構の解明

**【若手研究者】プログラム**

氏名	所属	研究テーマ
石本 崇胤	熊本大学医学部附属病院 消化器癌先端治療開発学	スキルス胃癌腹膜播種を促進する癌-ストロー マ細胞間ネットワーク機序の解明
大澤 毅	東京大学 先端科学技術研究センター ニュートリオミクス・腫瘍学分野	アミノ酸欠乏に適応しがん悪性を促進するメ カニズムの解明
片岡 圭亮	国立がん研究センター研究所 分子腫瘍学	NK/T 細胞腫瘍の発症・進展における遺伝子異 常の役割の解明
坂田(柳元) 麻実子	筑波大学 医学医療系 血液内科	微小環境細胞を標的とするT細胞リンパ腫の治 療戦略
櫻井 雅之	東京理科大学 生命医科学研究所 分子病態学研究部門	ゲノム DNA アデノシン脱アミノ化修飾による DNA 変異とがん化機構解明、抗がんへの応用
中川 勇人	東京大学医学部附属病院 消化器内科	脂質代謝リプログラミングを標的とした肝胆道 癌の新規治療戦略
藤下 晃章	愛知県がんセンター研究所 がん病態生理学分野 分子診断学	大腸がん自然転移モデルに基づく治療標的の 探索に向けた基盤研究
向井 康治朗	東北大学 大学院生命科学研究所 細胞小器官疾患学分野	STING が惹起する自然免疫応答の収束分子機 構
諸石 寿朗	熊本大学 生命科学研究所 分子酵素化学分野	抗腫瘍免疫応答の成立に関わる分子機構の解 明
山内 拓司	九州大学病院 遺伝子細胞療法部	CRISPR-Cas9 機能的ノックアウトスクリーニ ング法を用いた AML に対する ATRA 併用新規分 化誘導療法の開発